

ミツカン水の文化センター

第22回(平成28年度)

「水にかかわる生活意識調査」結果レポート

= 節水の呼びかけにも、節水意識の変化なし =

ミツカン水の文化センター(事務局:東京都中央区新川1-22-15茅場町中埜ビル 株式会社Mizkan Partners 広報部内)では、本年6月中旬に、東京圏、大阪圏、中京圏の在住者1,500名を対象に、平成28年度「水にかかわる生活意識調査」を実施し、このほど集計結果をまとめました。

今回は、ここ数年の本調査における節水意識の低下を受け、調査を開始した1995年以降の節水意識の変化に着目した他、「水の文化」を取り巻く新たなトピックに関連した設問を加えて調査を実施しました。

「水にかかわる生活意識調査」は、センター設立に先立ち、1995年に第1回目を実施して以来、ほぼ同じ内容で毎年6月に行っており、今回が22回目となります。日常生活と水とのかかわりや意識、水と文化などについてアンケート形式で調べるという手法により、生活者の実感としての水の諸相を明らかにしようというものです。[今回の調査データおよび過去(第1回~21回)の集計概要は、別途HPで紹介しています。]

《調査結果》

【1】節水の呼びかけにも、節水意識の変化なし

…依然として“節水していない人”が5割超

【2】災害時の備えとしてのミネラルウォーター買い置き量は？

…「2~3日」が4割超で最多。「1週間」以上は約3割

…ただし、買い置いていない人を含めた全体では、“3日分”備えている人は半数以下

【3】「山の日」の認知は？

…3人に2人程度が、「知らない」と回答

【この件に関するお問い合わせ先】

ミツカン水の文化センター 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15茅場町中埜ビル

株式会社Mizkan Partners 広報部内

TEL.03-3555-2607 FAX.03-3297-8578 <http://www.mizu.gr.jp>

## 《結果の抜粋と掲載ページ》

<b>■調査概要</b>	2ページ
<b>■日常の水意識／東京・大阪・中京圏</b>	
◇依然として“節水していない人”が5割超 東京圏での節水の呼びかけにも、節水意識向上せず …トピック【1】	3ページ
<b>■水と災害／東京・大阪・中京圏</b>	
◇水災害への不安、“感じていない人”が5割台で推移	4ページ
◇不安に感じている災害、1位「地震」、2位「台風」、3位「ゲリラ豪雨」で昨年同様 居住地別では、中京圏で「地震」と「台風」が同率トップ	4ページ
◇災害時の水の備え、「ミネラルウォーターを買い置く」が1位も、半数未満 東京圏で備えに対する意識高まる。「何もしていない」人が3割台前半まで減少	5ページ
◇ミネラルウォーターの買い置き量、「2～3日」が4割超で最多 「1週間」以上は約3割 …トピック【2】	5ページ
◇災害時に一番早く復旧してほしいライフラインは、「電気」がトップ	6ページ
◇ハザードマップの認知率が、初の5割超え	6ページ
<b>■水と文化／東京・大阪・中京圏</b>	
◇水と関わりの深い日本の文化、外国人に紹介したい日本の水文化、 ともに1位は「水道インフラ」	7ページ
◇「水の都」でイメージする町や都市、1位は「安曇野・南アルプス」	7ページ
◇舟運の利用実績が「ある」人は約3割	8ページ
◇6割超が舟運を「利用したい」	8ページ
◇水や自然に関する祝日・記念日、3人に2人程度が「山の日」を知らない…トピック【3】	8ページ
<b>■水道水に関する意識／東京・大阪・中京圏</b>	
<b>【水道水への評価】</b>	
◇水道水の評価は10点満点中7.15点で、昨年比0.31ポイント減	9ページ
◇飲用としての水道水の評価は10点満点中6.86点で、昨年比0.41ポイント減	9ページ
◇水道水への不満、1位は昨年同様「特に不満なし」で、数値も4割近くに上昇 不満の上位の中では、「おいしくない」、「臭いがある」の数値が微増	10ページ
◇不満点別の水道水評価は、“味”や“臭い”に不満を持つ人の評価が特に低い結果に	10ページ

### 【調査概要】

#### 第22回(平成28年度)「水にかかわる生活意識調査」

- ◆調査対象数 : 1,500票
- ◆調査対象者 : 東京圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)、大阪圏(大阪、兵庫、京都)、中京圏(愛知、三重、岐阜)に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査期間 : 平成28年6月9日(木)～6月14日(火)
- ◆回収数(人) :

	東京圏		大阪圏		中京圏		合計		小計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
30代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
40代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
50代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
60代	50	50	50	50	50	50	150	150	300
合計	250	250	250	250	250	250	750	750	1,500
	500		500		500				

## 日常の水意識／東京・大阪・中京圏

今年6月、利根川水系ダムの貯水率低下により、東京を含む関東(1都5県)では、同16日より10%の取水制限が実施されました。ここ数年の「家庭における水の使い方」は節水意識の低下が止まらない状況の中、今年の調査を実施した時には取水制限が危惧され、節水の呼びかけも始まった時期でしたが、その数値に変化は見られたのでしょうか。

今回は、本調査を開始した1995年以降の節水意識の変化などにも着目しました。

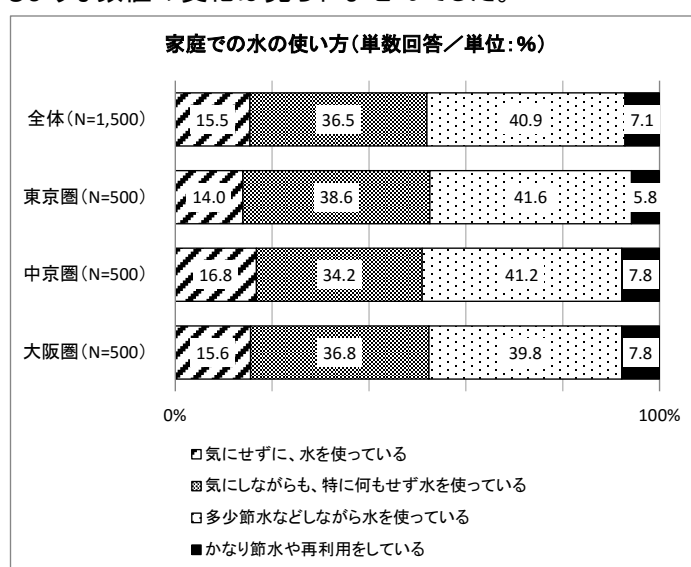
### Q.水の使い方は？ (4択)

#### ◇依然として“節水していない人”が5割超

##### 東京圏での節水の呼びかけにも、節水意識向上せず

今年の結果は、「節水・再利用を気にしながらも、何もせず水を使っている」人(36.5%)が昨年から4.4ポイント減少したものの、「節水・再利用は気にせず水を使っている」人(15.5%)が2.4ポイント増加し、この両者を合計した“節水していない人”は昨年から微減の52.0%も、依然として5割を超えました。

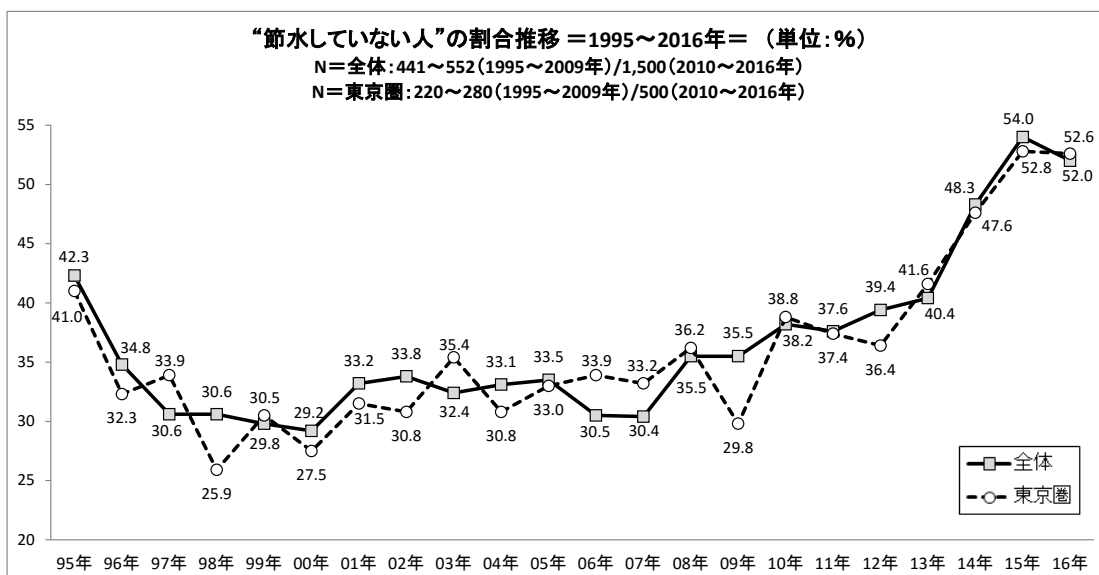
東京圏では、“節水していない人”が52.6%で昨年(52.8%)とほぼ変わらず、節水の呼びかけによる節水意識の向上を思わせるような数値の変化は見られませんでした。



調査初年度からの“節水していない人”の推移を見てみると、全体の数値は2000年頃から緩やかな右肩上がりの傾向にあり、2013年以降で上昇率が高くなっていることがわかります。

東京圏では1995年以降、96年、97年、01年、12年に取水制限があったものの、節水意識との明らかな相関はみられませんでした。

一方気になるのが、2008年以降みられる“節水していない人”の上昇トレンドです。その理由は現段階ではわかりませんが、当センターとして今後、深掘りしていきたいテーマと捉えています。



※2009年以前はFAX調査。

## 水と災害／東京・大阪・中京圏

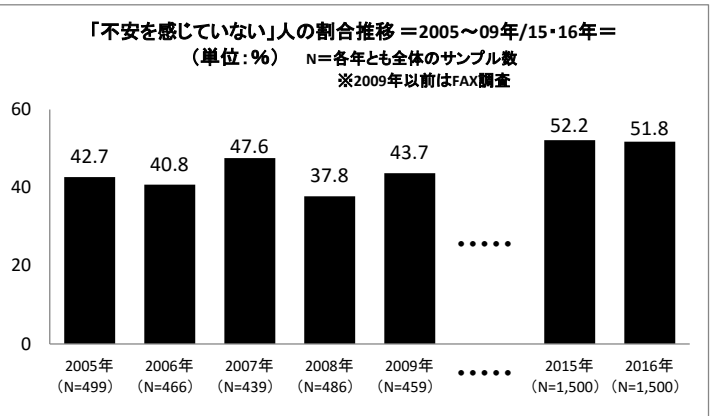
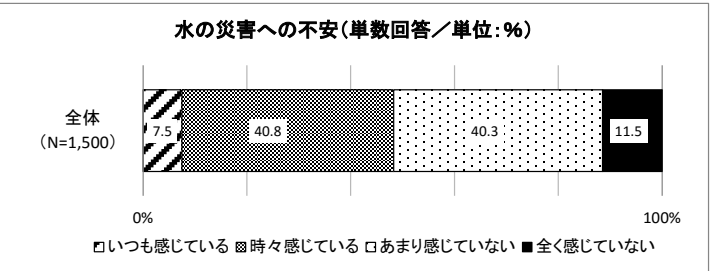
### Q.水の災害への不安は？（4択）

#### ◇“不安を感じていない人”が5割台で推移

昨年、水の災害への不安について2009年以来6年ぶりに調査を実施したところ、「あまり感じていない」と「全く感じていない」を合わせた“不安を感じていない人”が52.2%となり、2005年～09年までの5年間の平均である42.5%を約10ポイントも上回る結果となったことから、その推移動向を見るべく、本年も同様の調査を行いました。

その結果、“不安を感じていない人”の割合は51.8%と、昨年から増加はしなかったものの、引き続き5割を超える数値で推移しました。

当センターでは、2014年8月の広島、翌15年9月の鬼怒川の大水害はまだ記憶に新しいものと捉えていましたが、災害に遭った地区ではない調査エリアの方にとっては、災害に対する意識が薄らぐのが予想以上に早くなっているように感じられます。



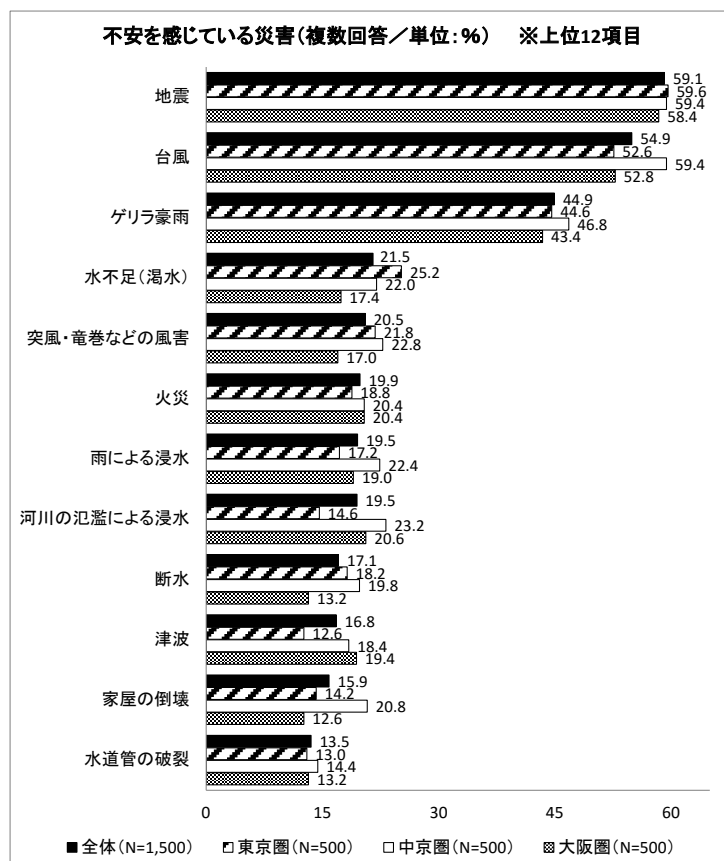
### Q.不安に感じている災害は？（22択+その他+特に不安を感じたことはない）

#### ◇上位4項目は昨年同様で、1位「地震」、2位「台風」、3位「ゲリラ豪雨」、4位「水不足」

#### 居住地別では、中京圏で「地震」と「台風」が同率トップ

不安に感じている災害全般について聞いたところ、上位4項目は昨年と同様の順位でした。5位は「突風・竜巻など」(20.5%)が昨年6位から順位を上げ、昨年5位の「火災」(19.9%)と入れ替わりしました。

居住地別にみると、東京圏と大阪圏は、ともに1位「地震」(東京59.6%、大阪58.4%)が、2位「台風」(東京52.6%、大阪52.8%)を5ポイント以上離れたのに対し、中京圏では、「地震」と「台風」が59.4%で同率トップでした。



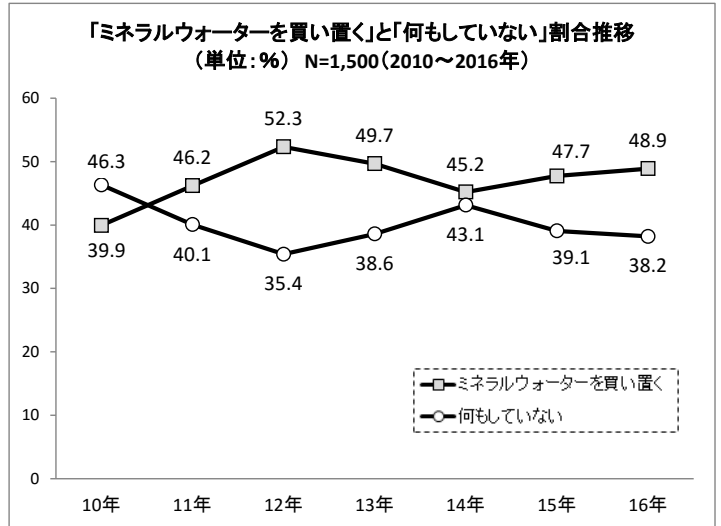
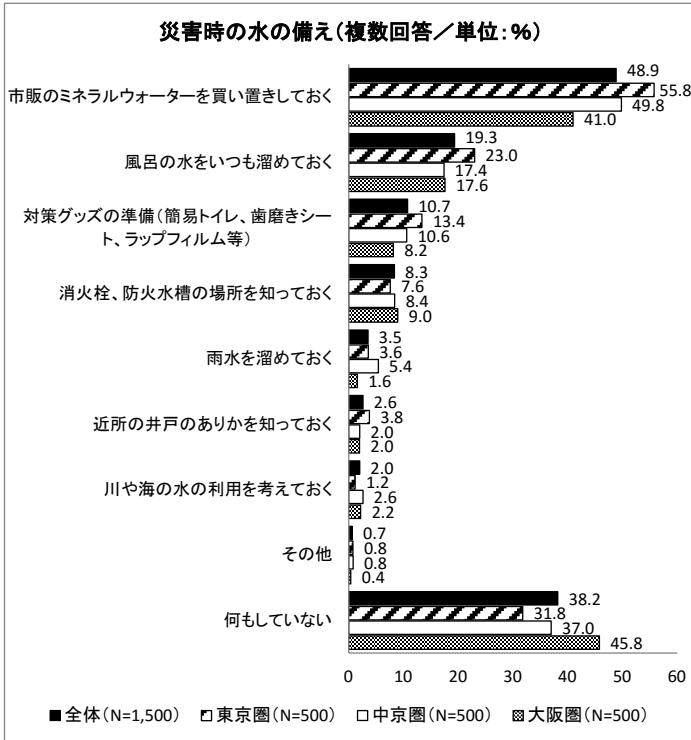
## Q.災害時に対する水の備えは？（7択＋その他＋何もしていない）

### ◇「ミネラルウォーターを買い置く」が1位も、半数未満

#### 東京圏では「何もしていない」人が3割前半まで減少

「災害時に対する普段の水の備え」は、「ミネラルウォーターを買い置きしておく」が昨年(47.7%)から微増の48.9%で1位でしたが、5割には届きませんでした。一方、2位の「何もしていない」は、0.9ポイント減の38.2%で、引き続き4割に近い結果となりましたが、東京圏においては、「何もしていない」人の割合が一昨年41.2%、昨年34.0%、今年は31.8%と3割前半まで下がっており、近年、備えに対する意識が高まってきていると言えます。

また今回、2010年以降の「ミネラルウォーターを買い置く」人と「何もしていない」人の割合を経年でみたところ、東日本大震災や熊本地震の影響を思わせる変化が若干あるものの、「ミネラルウォーターを買い置く」は概ね5割前後、「何もしていない」は4割前後で推移していることがわかります。

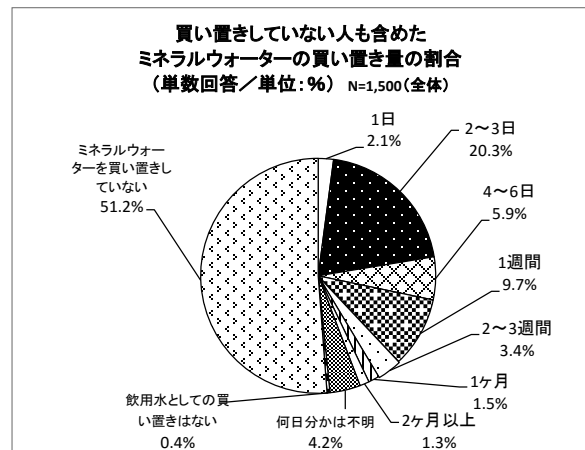
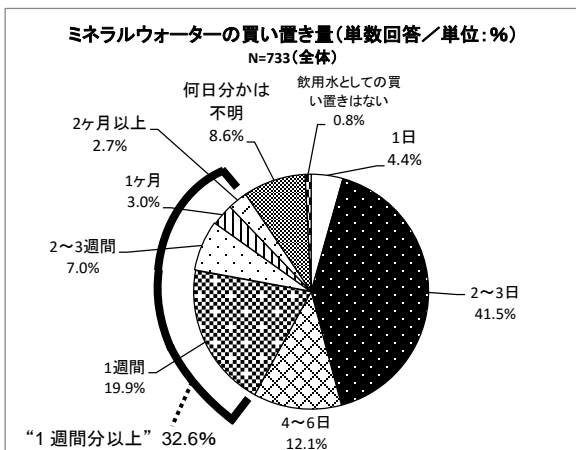


## Q.ミネラルウォーターの買い置き量は？（9択）

### ◇買い置きしている人の中では「2~3日」以上が8割超も、買い置きしていない人を含めると半数以下

ミネラルウォーターの買い置き量に関して、政府のガイドラインでは「一人1日3リットルを目安に3日分」としながらも、「非常に広い地域に被害が及ぶ可能性のある南海トラフ巨大地震では『1週間分以上』の備蓄が望ましい」との記載があります。

それではミネラルウォーターを買い置きしている人たちは、実際にどれくらいの量を常備しているのでしょうか。上記設問で「ミネラルウォーターを買い置く」を選択した回答者を対象に、飲用としての買い置き量を尋ねました。



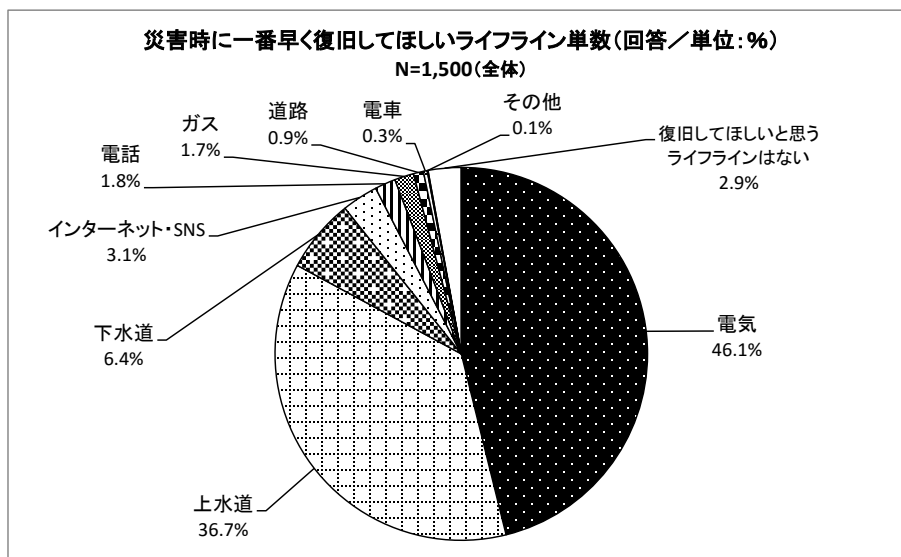
その結果、最も多かったのは「2～3日」で41.5%、次いで「1週間」(19.9%)、「4～6日」(12.1%)、「分からない」(8.6%)、「2～3週間」(7.0%)と続きました。「2～3日」以上の期間を回答した人の合計は86.2%となり、前述のガイドラインによる「3日分」は大多数が達成した一方で、より望ましいとされる「1週間分以上」は3割程度(32.6%)でした。

ただし、前問の災害時の水の備えで「ミネラルウォーター買い置き」を選択しなかった人(51.2%)を含めると、実際には半数以上が最低限としての「3日分」ですら備えていないということになります。

## Q.災害時に一番早く復旧してほしいライフラインは？ (8択+その他+ない)

### ◇「電気」が「水道」を上回りトップ

今回新たに、災害時にライフラインがストップした際にいち早く復旧してほしいと思うものを尋ねたところ、1位は「電気」で、4割を超える回答(46.1%)がありました。2位は「上水道」(36.7%)、3位は「下水道」(6.4%)となり、この2つを合計した「水道」も43.1%で「電気」を下回りました。なお、「電気」は、性別、年代別、居住地別のすべてでトップでした。

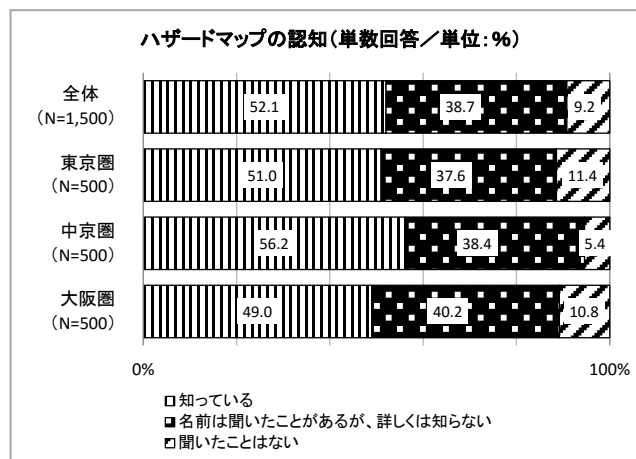


## Q.ハザードマップの認知は？ (3択)

### ◇内容も含めた認知率が、初の5割超え

ハザードマップの認知については、「知っている」が52.1%となり、2014年の調査開始以降、初めて認知率が5割を超えました。

居住地別においては、大阪圏のみ「知っている」人の割合が5割に到達しないといった差異が見られました。



## 水と文化／東京・大阪・中京圏

今年から、「山の日」が新たな国民の休日として施行される他、東京都では「水の都」の再興を掲げ、交通手段としての「舟運」の定着を目指した取り組みを始めるなど、水や自然と文化を取り巻く環境に新たなトピックが見られています。そこで今回、昨年初めて調査を行った「外国人に紹介したい水とかかわりの深い日本の文化」に加え、それらのトピックに関連した意識・実態を探る設問を追加しました。

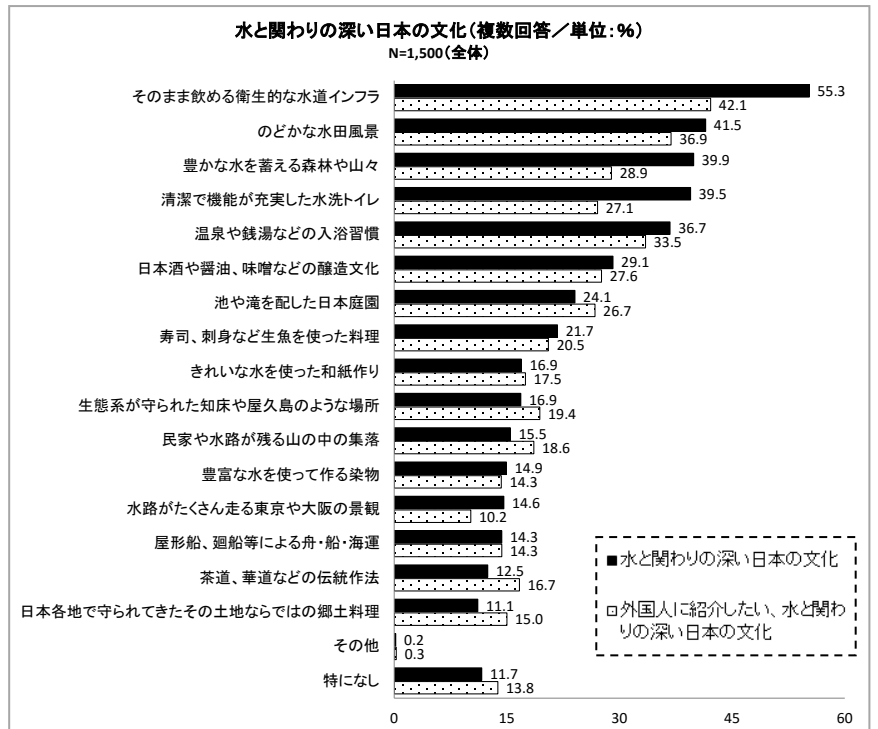
### Q.水と関わりの深い日本の文化は？（16択+その他+特になし）

### Q.外国人に紹介したい「水と関わりの深い日本の文化」は？（16択+その他+特になし）

#### ◇昨年に続き、ともに1位は「そのまま飲める水道インフラ」

「水と関わりの深い日本の文化」について、昨年同様の選択肢に「清潔で機能が充実した水洗トイレ」を新たに追加して聞いたところ、1～3位は昨年と同様の結果で、「水洗トイレ」は39.5%で4位に入りました。

また、上記と同様の選択肢で聞いた「外国人に紹介したい水と関わりの深い日本の文化」も、1位は昨年に続き「水道インフラ」となり、「水洗トイレ」(27.1%)は6位でした。

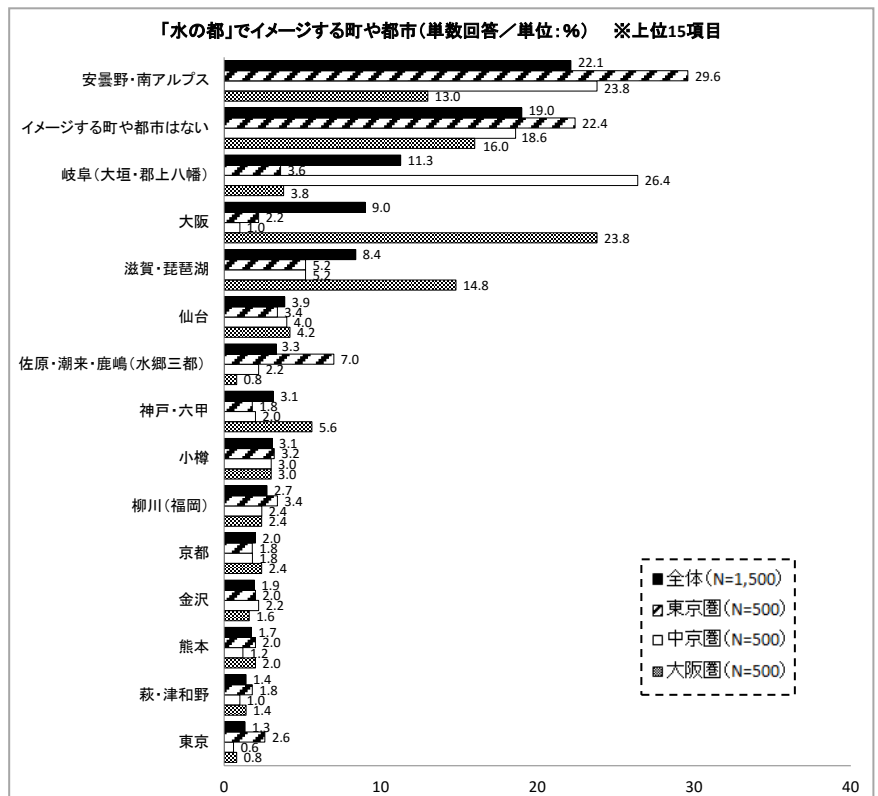


### Q.「水の都」に最も近いイメージの町や都市は？（22択+その他+ない）

#### ◇1位は「安曇野・南アルプス」

今回、イメージする「水の都」について、あらかじめ選択肢を提示し、調査を行いました。結果は、「安曇野・南アルプス」が22.1%で全体のトップでした。

居住地別にみると、中京圏と大阪圏の1位は、それぞれ「大垣・郡上八幡」(26.4%)、「大阪」(23.8%)と、各エリアに該当する町・都市が選ばれましたが、東京圏の1位は「安曇野・南アルプス」(29.6%)で、「東京」(2.6%)は9位(全体では1.3%で14位)でした。かつては水都としての賑わいを見せ、近年では周遊クルーズなども盛んになってきた東京ですが、「水の都」としての認知はあまり得られていないようです。



## Q.舟運を利用したことはあるか？（2択）

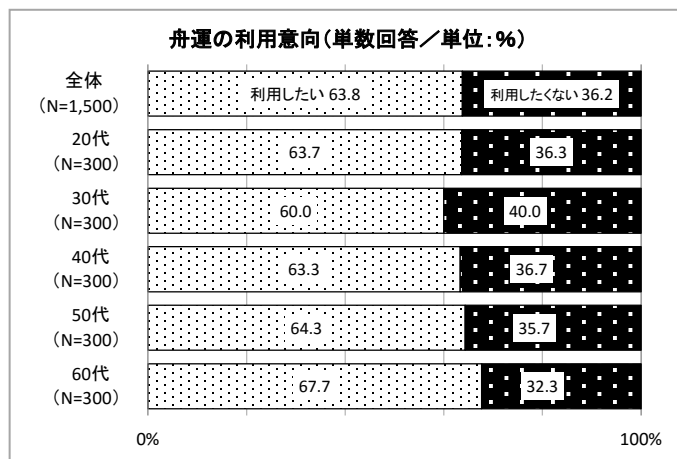
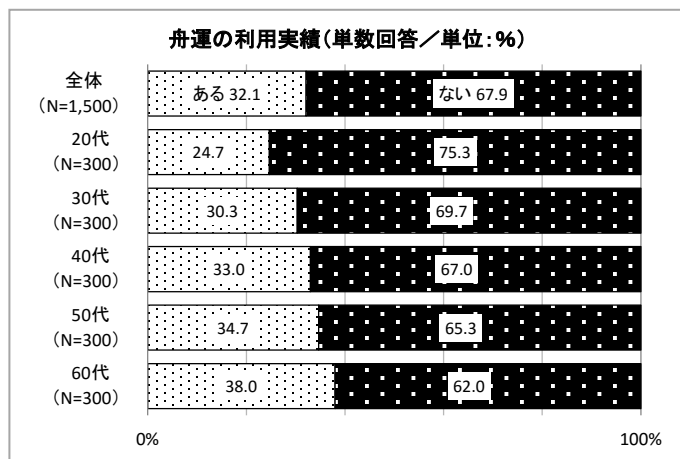
## Q.舟運を利用したいと思うか？（2択）

◇舟運を利用したことが「ある」人が約3割。世代間で格差あり

◇6割超が舟運を「利用したい」

日常生活や観光における交通手段の一つとして、これまでに舟運を利用したことがあるかを尋ねたところ、32.1%が「ある」と回答。年代別では60代の38.0%が最も高く、最も低かった20代(24.7%)と13.3ポイントの差がありました。

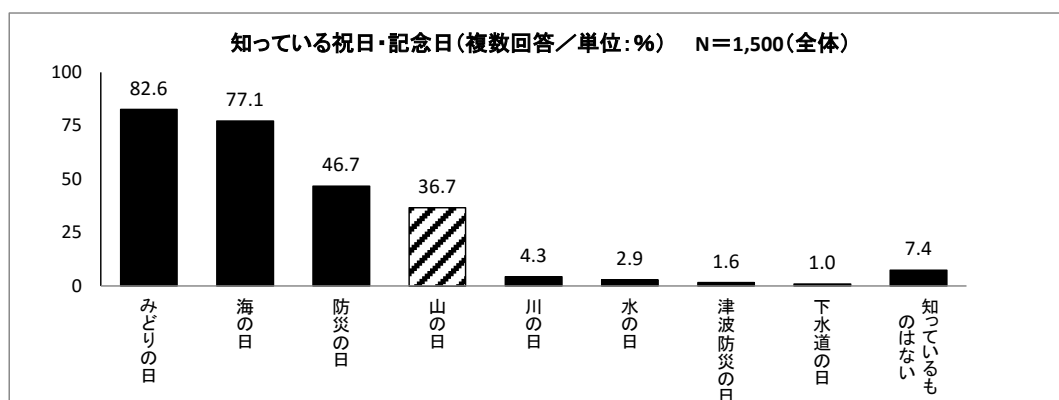
次に、利用経験の有無にかかわらず、今後舟運を利用したいかを尋ねると、「利用したい」は63.8%と、高い意向を示しました。こちらは、各年代とも60%台で、大きな差異は見られませんでした。



## Q.知っている祝日・記念日は？（8択+ない）

◇3人に2人程度が「山の日」を知らない

今年から「山の日」が新たな祝日として加わることにちなんで、水や自然にかかわる祝日・記念日の認知度を探ることを目的に調査を行ったところ、認知率の高かった上位3項目は「みどりの日(5月4日)」(82.6%)、「海の日(7月第3月曜日)」(77.1%)、「防災の日(9月1日)」(46.7%)となり、祝日ではない記念日としては唯一、「防災の日」が上位に入りました。「山の日(8月11日)」は、36.7%にとどまりました。以下、「川の日(7月7日)」(4.3%)、「水の日(8月1日)」(2.9%)、「津波防災の日(11月5日)」(1.6%)、「下水道の日(9月10日)」(1.0%)は、いずれも1桁台の認知率でした。





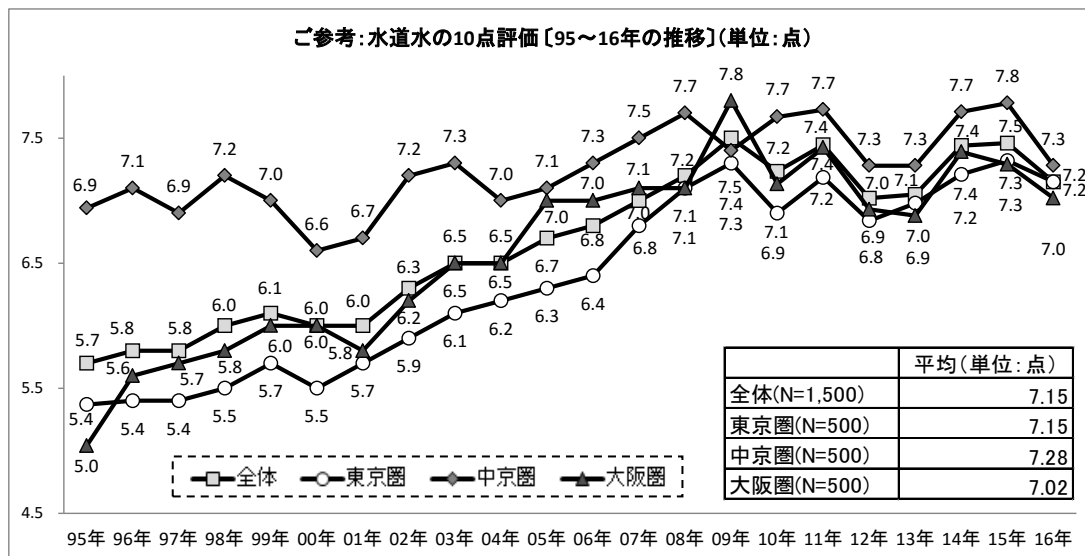
## 水道水に関する意識／東京・大阪・中京圏

### 【水道水への評価】

#### Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

##### ◇全体の平均は7.15点

水道水に対する評価を10点満点で聞いたところ、全体の平均は、昨年(7.46点)から0.31ポイント減の7.15点、東京圏は0.17ポイント減の7.15点、中京圏は0.5ポイント減の7.28点、大阪圏は0.27ポイント減の7.02点でした。得点の内訳を見てみると、10点満点をつけた人が全体で昨年(16.7%)から5.0ポイント減の11.7%だった他、東京圏で3.0ポイント減の11.4%、中京圏で9.0ポイント減の14.0%、大阪圏で3.2ポイント減の9.6%と、いずれも数値を下げる結果となり、中でも中京圏の低下率が目立ちました。



対象エリア：1995年…東京都、大阪府、愛知県、1996～2014年…東京圏(1都3県)、大阪圏(2府1県)、中京圏(3県)  
有効回答数：1995～2009年…443～553、2010～2016年…1,500

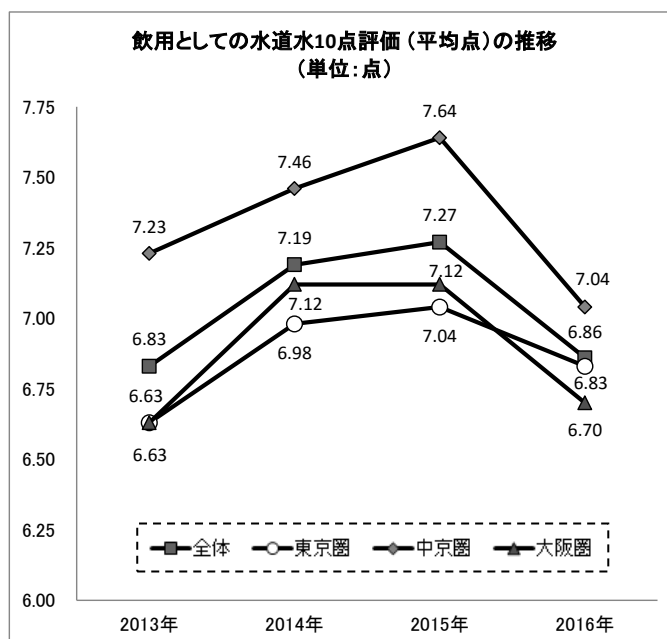
#### Q.水道水を飲用水として10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

##### ◇全体の平均は6.86点

次に、飲用目的に限定した場合の水道水評価を前述の全般的な水道水評価と同様に10点満点で聞いたところ、全体の平均は、昨年(7.27)から0.41ポイント減の6.86点、東京圏が0.21ポイント減の6.83点、中京圏が0.6ポイント減の7.04点、大阪圏が0.42ポイント減の6.70点となり、こちらも全般的な水道水評価と同様の傾向を示しました。

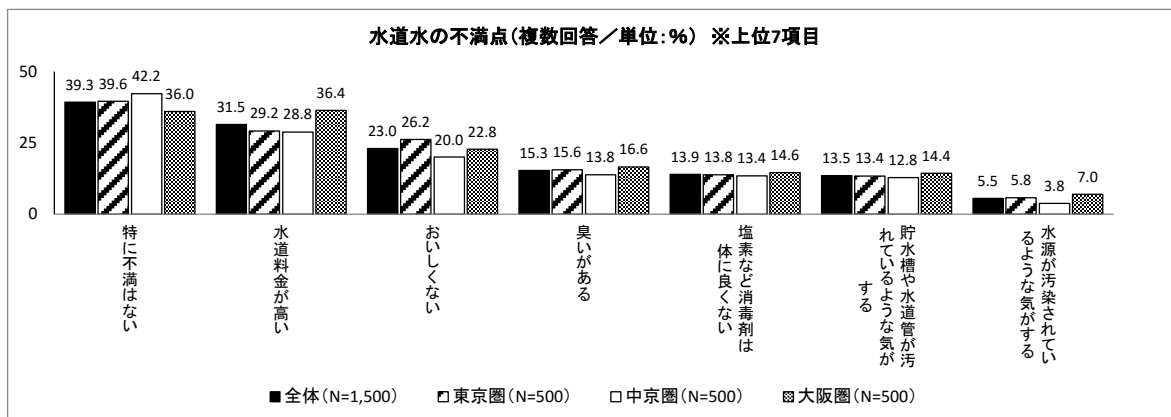
飲用としての水道水 10 点評価(平均点)

	平均(単位：点)
全体(N=1,500)	6.86
東京圏(N=500)	6.83
中京圏(N=500)	7.04
大阪圏(N=500)	6.70



## Q.水道水について不満を感じていることは？（8択＋その他＋特に不満はない）

◇1位は昨年同様で「特に不満はない」。数値も4割近くに上昇  
不満の上位の中では、「おいしくない」、「臭いがある」の数値が微増



「水道水に対する不満」を聞いたところ、昨年と同様に「特に不満はない」(39.3%)が全体のトップで、数値も昨年から3.1ポイント増加しました。

一方、不満の上位3項目は「水道料金が安い」(31.5%)、「おいしくない」(23.0%)、「臭いがある」(15.3%)で、中でも「おいしくない」は昨年から1.8ポイント増、「臭いがある」は2.0ポイント増と、ともに数値がわずかながら上昇しました。

◇“味”や“臭い”に不満を持つ人は、水道水評価の平均点が特に低い結果に

不満点別の水道水10点評価(平均点)

	平均(単位:点)
全体(N=1,500)	6.86
特に不満はない(N=589)	7.81
水道料金が安い(N=472)	6.65
おいしくない(N=345)	5.26
臭いがある(N=230)	5.17
塩素などが体に良くない(N=209)	6.03

前述の「飲用としての水道水10点評価」を、上記の水道水への不満点別でみると、「特に不満はない」人の平均が7.81点と、「全体」の平均(6.86点)を大きく上回りました。また、「水道料金が安い」と回答した人の平均は、「全体」の平均点に比較的近い6.65点だったのに対し、「おいしくない」や「臭いがある」といった“飲むこと”に直接関わるような項目を回答した人の平均は、それぞれ5.26点、5.17点と「全体」の平均点を大きく下回りました。

### 「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年(文化元年)の創業以来、食酢の醸造を社業の中心としてきました。食酢の醸造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものがありました。

1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立。センターでは研究活動、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、市民参加型ワークショップ「里川文化塾」の実施など、様々な活動を行っています。

「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業や、一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用頂くことを目的としています。